

平成29年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成29年11月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並か多い	平年並か少ない

○12月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
カンショ	① ナカジロシタバ	多	↘	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。
	② イモキバガ	多	↘	今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 野そ	並	↗	さとうきびの糖度上昇に伴い、11月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② そうか病	やや多	↗	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量が増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	やや少	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ミカンハモグリガ	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	→	寄生葉率の平年の推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	→	今後1か月の降水量が多い見通しから、11月と同程度の発生量と考えられる。
	② 黒点病	並	↗	発病果率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ そうか病	多	→	発病果率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ アブラムシ類	並	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ ハダニ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	やや多	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移、トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	発生株率の平年の発生推移、新梢の発生がほぼ終息していることから、11月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。

○12月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	② 斑点病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	④ アブラムシ類	並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
ピーマン	① ウイルス病	やや多	↗	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点細菌病	並	→	発病株率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	③ うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が高い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ヒラズハナアザミウマ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑥ チャノキイロアザミウマ	多	→	今後1ヶ月の気温が平年並の見通しから、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑦ ホコリダニ類	並	↘	寄生株率の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
トマト	① 黄化葉巻病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② ウイルス病(黄化葉巻病以外)	多	→	発病株率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	③ うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	発生ほ場率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
さやいんげん (平張)	① 菌核病	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
小ギク (年末出荷用)	① アザミウマ類	やや多	↘	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出雷期にも感染するため、出雷前からの予防散布を行う。 せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
ゴーヤー (施設)	灰白色斑紋病	11月中旬の調査の結果、発病株は確認されなかった。 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に務める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、密閉処分する。
トマト	すすかび病	11月中旬の調査の結果、発病株率は6.6%(前年17.1%)であった。 多発すると防除が困難になるので、発生前に予防散布を行う。多湿条件や過繁茂は避ける。

平成29年度 宮古群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成29年11月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並か多い	平年並か少ない

○12月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① アオドウガネ	並	→	幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	④ 野そ	並	→	被害茎率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	多	↘	トラップの誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
	② ハダニ類	並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ	① ウイルス病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	やや少	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	並	↘	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
とうがん	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	つる先の成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハモグリバエ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハダニ類	(発生なし)並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月の発生予報つづき（宮古群島）

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ タバココナジラミ	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出蕾期にも感染するため、出蕾前からの予防散布を行う。 せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
かぼちゃ	細菌性病害	11月中旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%）であった。 圃場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。

平成29年度 八重山群島 病害虫発生予報 第9号(12月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成29年11月23日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並か多い	平年並か少ない

○12月の発生予報(八重山群島)

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	やや少	→	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 野そ	並	↗	被害茎率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
	② ハダニ類	(発生なし)やや少	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。
かぼちゃ	① ウイルス病	やや少	→	媒介虫であるアブラムシ類の発生が「並」予報であることから、11月と同程度の発生量と考えられる。
	② うどんこ病	やや少	↗	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	並	→	成虫数の過去2年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の例年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	多	↗	発病葉率の例年の発生推移、今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	成虫数の例年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	④ タバココナジラミ	少	→	成虫数の例年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ アブラムシ類	多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○12月の発生予報つづき（八重山群島）

作物	病害虫名	11月の発生量 (現況)	12月の 増減傾向	増減傾向の根拠
オクラ	① うどんこ病	やや少	↗	収穫後半のため草勢の低下が見込まれることから、11月より発生量は増加すると考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	多	↘	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。
	③ アブラムシ類	並	↘	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫	多	↘	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	新植夏植ほ場で黒穂病の発生が確認された。 また防除員報告によると、波照間島でも発生が確認されている。 発病株は早期に抜き取り処分する。また発生ほ場から採苗を行わない。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	出蕾期にも感染するため、出蕾前からの予防散布を行う。 せん定枝や前作の残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
かぼちゃ	細菌性病害	11月中旬の調査の結果、発病葉率は12.0%（前年0%）であった。 圃場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
ゴーヤー (施設)	灰白色斑紋病	11月中旬の調査の結果、発生株率は0.7%であった。 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に努める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、密閉処分する。